

## 石濱義則

——治安維持法違反で広島刑務所服役中に被爆したクリスチャン歯科医——

樋口 輝雄

1925年(大正14)に公布施行された治安維持法による検挙者は、敗戦後の1945(昭和20)10月勅令第575号で廃止されるまでの20年間で7万人以上とも言われる。当初は「国体(若ハ政体)ヲ変革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的ニ結社」した左翼運動が対象だったが、法文解釈と適用範囲を拡大し「一億総力戦」「国策」遂行のための思想・言論弾圧法規として度重なる「改正」が行われる。暴圧は宗教運動や文芸活動にまで波及し、1940年代には相次いで3人の歯科医師が検挙された。

1940年8月には、新興俳句の旗手と謳われた西東三鬼(本名:斎藤敬直,1900-62,日本歯科医専卒)が京大俳句事件で検挙される。山口県宇部市で俳句結社を主宰する山崎青鐘(本名:山崎清勝,1908-74,大阪歯科医専卒)は41年に検挙,翌年起訴された。42年には神戸市の石濱義則(1903-81)がプロテスタント系の非制度教会グループであるプリマス・プレズレン派指導者として起訴され,懲役3年6か月の判決を受けた。広島刑務所で服役中の1945年8月6日,原子爆弾投下により爆心地から2キロ圏内の刑務所内で被爆したが,広島刑務所は日本一の堅牢な外堀で閉ざされていたため,収容者や職員1千余名中,即死と行方不明者は23人に留まったという。

石濱義則は1903年(明治36)年5月,兵庫県淡路島に生まれた。小学校卒業後に神戸市内の開業歯科医師のもとで書生生活をおくり,1921年(大正10)9月に歯科医師試験の学説試験,翌22年10月に実地試験に合格する。試験及第時は19歳だったため,24年(大正13)1月11日付第9798号で歯科医籍に登録,歯科医師免許証を下付された。YMCAで英語を学び洗礼を受けて,1926年2月から神戸市大塚町で歯科医院を開業

した。近くの湊川公園での路傍伝道の折に,皇祖神の天照大神を誹謗する言動があったと神宮不敬罪(刑法74条)で起訴され,懲役8か月に処せられた。1934年(昭和9)12月から神戸刑務所に服役,出所後に6か月間の歯科医業停止の行政処分を受け,治安維持法違反で広島刑務所収監中の44年2月には歯科医師免許を剥奪された。これらの経緯は次男の義信氏を主人公に子どもの視点で戦時中の石濱一家を描いた,息女・石浜みかる氏の『あの戦争のなかにぼくもいた』(国土社,1992.)に詳しい。

プロテスタント各教派統合により設立された日本基督教団では,国歌斉唱や皇居の遙拝が「国民儀礼」となり,黙禱ののちに讚美歌,聖書拝読が行われたとの記録が残る。キリスト教界では多くが国策遂行に追随するなか,プリマス・プレズレン集団は,天地創造説やキリストの再臨を積極的に主張したことで,記紀神話に基づく天皇神格化のイデオロギーや「国体」観念を否定すると看做された。しかし保釈中に当局の心証をよくするため,伊勢神宮に参拝してその証拠を裁判官に提出したこと,入獄時に係官から「クリスチャンか」と尋ねられ,「で,あったのです」と答えたことなどが石濱を苦しめ,暫くして刑務所内で自己批判したという。

治安維持法違反で収監され家族との生活を奪われた石濱は,敗戦後釈放されるが免許取消の行政処分はなお有効で,市井の歯科医師として生活の糧も失った。戦後は歯科技工の仕事を受け,漸く2年後の1947年(昭和22)に同年10月2日付第37331号で歯科医籍に再登録され,新しい免許証が交付された。信仰を同じくする妻シナヨとの間に二男一女があり,49年12月から神戸市兵庫区金平町で歯科医院を開業する。伝道活動とともに

聖書やヘブライ語の研究に努め、55年から10年間、地元のラジオ局で毎週ラジオ伝道を行った。1981年（昭和56）召天。信仰に生きたクリスチャン歯科医・石濱義則の足跡を描いた短編記録映画『遺言』（監督：盛善吉）は、没後の83年に完成、妻シナヨは2008年（平成19）101歳で逝去した。演者は2014年にノンフィクション作家でエッセイストの石浜みかる氏の知遇を得てお話を伺うことができ、合同例会当日にもご出席いただいた。

## 文 献

- 1) 同志社大学人文科学研究soキリスト教社会問題研究会. 特高資料による戦時下のキリスト教運動I～III. 新教出版社. 1972-73.
- 2) 石浜義則. 私の歩んだ道 主イエス・キリスト. 私家版. 1979.
- 3) 石浜みかる. 勝ち得た自由——父から聞いた原爆の話——. (女子パウロ会編. 原子野からの旅立ち. 女子パウロ会. 2005. 所収)
- 4) 田島和生. 新興俳人の群像——「京大俳句」の光と影——. 思文閣出版. 2005.
- 5) 石浜みかる. 「守るべき神の言葉がある」——石濱義則の場合. (石浜みかる. 変わっていくこの国で——戦争期を生きたキリスト者たち. 日本キリスト教団出版局. 2007. 所収)
- 6) 石濱義信. 戦時の経験. (いのちのこことば社出版部編. 子どものとき、戦争があった. いのちのこことば社. 2011. 所収)
- 7) キリスト教史学会編. 戦時下のキリスト教——宗教団体法をめぐって——. 教文館. 2015.  
(平成27年12月六史学会合同例会)

## 書 評

今井 秀 著

### 『近世の医療史——京洛・大坂ゆかりの名医——』

同書は、近世をメインに曲直瀬直三から緒方洪庵までの京都・大阪ゆかりの著名な医師たち40名を大項目として立てた、フルカラーA4サイズの百科事典的な書籍である。それぞれの大項目（医師）の内容は次のような構成となっている。

- ・肖像画などの資料図版をふんだんに用いながら、その生涯と業績を詳説。
- ・主要な著作を主要ページの影印とその読み下し文あるいは解説で紹介。
- ・墓所については著者自らが現地調査し、菩提寺・墓の位置や写真だけでなく碑文や碑面の状態まで紹介。
- ・関連する他の医師（弟子や対立者）・事項についてのコラムを多数挿入。
- ・関連する学系図・系譜・系図を豊富に挿入。

肖像・史料の影印・写真などの図版を約1,100点以上（同書紹介文による）も用いるだけではな

く、読み下し文やコラムなどの項目数や分量も多く、A4判で約600ページという物理的大きさ・重量から受ける印象に違わぬ内容・情報量に圧倒される。

しかも、その圧倒的な情報量についても全く無駄がなく、加えて目次・本文とも単なる羅列ではなくA4判という大きな判型を活かしながら視認性を強く意識した配色・紙面配置がなされており、どのページを開いても何がどこに書かれているのか一目瞭然である。

市井に流通する「図版を多用」した「フルカラー」の「解説書」の類は、得てして不必要な図版と過度のカラー化により内容・情報量が水増しされ無駄な部分の多さに辟易するのが常であるが、同書はそのようなものとは対極に位置し、比較すること自体著者に対して失礼にあたるであろう。

それどころか、Information Technology 機器の発達により学術界にも豊富な情報量と検索性や視認